

# イエス御自身が真ん中に立ち

ルカ 24 : 36 - 48



司祭 ヨハネ 井田 泉

2021 年 4 月 18 日

復活節第 3 主日

聖光教会にて

今日の福音書はこのように始まりました。

「イエス御自身が彼らの真ん中に立ち、『あなたがたに平和があるように』と言われた。」ルカ 24:36

実はここでは、書き出しの一言が省略されています。何が省略されているかと言うと、「こういうことを話していると」という言葉です。

別に省いてもよい気がするかもしれませんが、しかしこの言葉に注意を払うと、そのときに主イエスの弟子たちがどういう状態にあったかがはっきりとわかるのです。

「こういうことを話していると、イエス御自身が彼らの真ん中に立ち、『あなたがたに平和があるように』と言われた。」

弟子たちはどういう状態にあったのでしょうか。

時は日曜日の真夜中です。その日曜日は大変な1日だったのです。

その日曜日の明け方早く、女の人たちがイエスの墓に行ったところ、ご遺体がなかった。輝く衣を着た二人の人が現れて「イエスは復活された」と告げた、というのです。イエスを失った悲しみと、イエスが復活したという話による驚きと混乱。さらにイエスはペテロにも現れた、といます。そんなことで集まった弟子たちは夜中まで興奮して語り合っていました。

そこに、その日曜日の午後、エルサレムから数時間もかかる

山の下の町、エマオまで行っていた二人の弟子が戻ってきてこういうことを話しました。——自分たちは道で復活されたイエスに出会った、何時間も話をした。夕食を共にしたとき、祈ってパンを裂いてくださったときにそれがイエスだとわかった、というのです。

復活のイエスに出会ったと確信と喜びをもって語る人。信じられない人。驚き、興奮、困惑、期待……が渦巻いて議論が続いています。

そのとき、弟子たちが「こういうことを話していると、イエス御自身が彼らの真ん中に立たれた」のです。

「イエス御自身が」と書かれています。ここに強調があります。話の焦点が弟子たちからイエス御自身に移ります。わたしたちも関心をイエスさま御自身に向けましょう。

### 「イエス御自身が彼らの真ん中に立たれた」

部屋の隅に、姿を隠してそっと立たれたのではありません。彼ら弟子たちの真ん中に、はっきりと御自分を示しつつ立たれた。イエスは愛する弟子たちに知ってほしい——御自分が復活して、今ここにいることを。最初の弟子たちだけではありません。2000年後の弟子であるわたしたちが復活の主をはっきり知ることを、イエスは切に願っておられます。

願わくは、復活のイエスさまがわたしたちの真ん中に立ってほしい。わたしたちが悩んだり困惑したり議論したりしているとき、イエスさまご自身がわたしたちの真ん中に立ってほしい。立ってくださるだけでなく、その事実をわたしたちに分からせてほしい。それをほかでもなくここで一緒に経験したいので、わたしたちはこの礼拝をこう祈って始めました。

「主イエス・キリストよ、おいでください」

「弟子たちの中に立ち、復活のみ姿を現されたように、わたしたちのうちにもお臨みください」

36 節の続きを読みましょう。弟子たちの真ん中に立たれたイエスは、『あなたがたに平和があるように』と言われた。」

弟子たちに、わたしたちに平和がないのをイエスにご存じます。わたしたちにない平和を与えようとして、イエスは呼びかけてくださいます。

「あなたがたに平和があるように」

けれども弟子たちの反応はどうでしょうか。

「37 彼らは恐れおののき、亡霊を見ているのだと思った。38 そこで、イエスは言われた。『なぜ、うろたえているのか。どうして心に疑いを起こすのか。39 わたしの手や足を見なさい。まさしくわたしだ。触ってよく見なさい。亡霊には肉も骨も

ないが、あなたがたに見えるとおりに、わたしにはそれがある。』」

イエスは一生懸命になっておられます。どうしたら皆が自分を信じてくれるのか。分かってくれるのか。両手を見せて、両足を見せて、「まさしくわたしだ」と言われます。「わたしに触ってよく見なさい」と言われます。

「40 こう言って、イエスは手と足をお見せになった。」

イエスはあらためて弟子たちに御自分の両手と両足を差し出されます。差し出されたイエスの両手と両足。そこに弟子たちは深い釘跡を見ました。亡霊ではない、肉と骨を持ったほんとうのイエスさまを、彼らははっきりと見ました。その両手は、三日前に自分たちの足を洗ってくださった手です。その両足は自分たちを導き歩いてくださった両足です。

イエスが自分たちを、わたしを愛していてくださったことがよみがえってきます。十字架に死んで終わったのではなく、わたしたちを愛してここに来てくださったイエス、ここにおられるイエスを、弟子たちは感じます。喜びが湧いてきます。うれしい。うれしいのですが、まだ半信半疑です。

「41 彼らが喜びのあまりまだ信じられず、不思議がっている

ので、イエスは、『ここに何か食べ物があるか』と言われた。  
42 そこで、焼いた魚を一切れ差し出すと、43 イエスはそれ  
を取って、彼らの前で食べられた。」

何としてもイエスは分からせたい。弟子たちに分かってほしいのです。自分が生きてここにいることを。弟子たちは依然として、喜びつつも不思議がっている。けれどもイエスキリストは、弟子たちを困惑や不思議の中に置いておくわけにはいかない。ちゃんとわかって確信してくれなければ、復活した意味がない。どうしたら分かってくれるのか。それでイエスは弟子たちの前で、焼き魚を食べてみせられました。

イエスの愛の熱心は、ついに実を結びます。弟子たちは心の目を開かれて、生きておられるイエスを知り、信じます。経験したことのない喜びに包まれます。ここに、エルサレムのある家の一室に、そして真夜中に、復活の主が中心におられる教会、復活のイエスが生きて働かれる最初の教会が誕生しました。

イエスの愛の熱心は、わたしたちにも注がれています。わたしたちの心の目が開かれて、生きておられる復活の主を知ることができるようになります。

祈ります。

主イエスさま、あなたが復活されたこと、現にわたしたちの  
ところにおいでになっていることを、わたしたちに教えてください。  
アーメン